



あ さ い ち

あいさつ

さわやか

いつでも

ちいきと



建学の精神  
生徒の信条  
教育目標

みんな仲よく 面倒よく  
正しくあれ 強くあれ 望み高くあれ  
感動・笑顔・仲間  
持ち味を生かし 協同しながら  
自らを成長させる生徒の育成

旭一中だより  
令和4年度  
第12号  
令和5年3月1日  
文責 岩井 玲

## 新しい世界への挑戦

今、世界は大きな転換期にあります。最近よく目にするキーワードに「持続可能」があります。世界は、戦争や紛争、エネルギー、人口、貧困など、多くの問題を抱え、「持続可能」に黄色信号が点っているのです。

今回は、「世界で一番貧しい大統領」と言われた、第40代ウルグアイ大統領のホセ・ムヒカさんのスピーチを抜粋で紹介합니다。詳細は、一中図書室の本で確認してください。

私たちは、もっと便利で、もっと良いものを手に入れようと、様々なものをつくってきました。おかげで世の中は驚くほど発展しました。しかし、それによって、ものをたくさんつって、売ってお金を儲け、儲けたお金で欲しいものを買ひ、さらにもっとたくさん欲しくなつて、もっと手に入れようとする、そんな社会を生み出しました。

今や、ものを売り買ひする場所は世界に広がりました。私たちは、できるだけ安くつって、できるだけ高く売るために、どこの国の、どこの人々を利用したらいいだろうかと、世界を眺めるようになりました。

80億の全人類が、贅沢の限りをつくす西洋社会と同じように、ものを買ったり、無駄遣いしたりできると思いますか。そんな膨大な資源が、この世界にあると思いますか。

飽くことなくものを手に入れ、ものをつくり続けることが、今の社会を動かしています。お金の流れがストップしたら、不景気という妖怪が一人一人を襲うでしょう。しかし、世界を襲っているのは、実は欲深さの妖怪なのです。

私は、人類がほら穴に住んでいた時代に戻ろう、と提案しているのではありません。そうではなくて、今の生き方をずるずると続けてはいけない、もっとよい生き方を見つけないといけない、と言いたいのです。

古代の賢人エピクロスやセネカ、そしてアイマラ民族は次のように言いました。

「貧乏とは、ものを持っていないことでなく、もっともっと、際限なくものを欲しがることである。」

この言葉は、何が大切かを教えています。社会が発展することが、幸福を損なうものであつてはなりません。発展とは、人間の幸せの味方でなくてはならないのです。

人と人が幸せな関係を結ぶこと。子どもを育てること。友人を持つこと。地球上に愛があること。発展は、これらの味方でなくてはなりません。

なぜなら、幸せこそが、もっとも大切な宝だからです。

義務教育を終え、人生に新たな一步を踏み出そうとする3年生のみなさんが、自分の大切な宝物を見つけるとともに、世界に新しい価値観を示してくれる日が待ち遠しいです。